



弘前大学医学部医学科 卒業時コンピテンシー

弘前大学医学部医学科は卒業時に修得しておくべき能力（アウトカム）として卒業時コンピテンシー（10領域）及び卒業時コンピテンシー（66項目）を規定しています。

I. プロフェッショナリズム

人の命に関わり健康を守るという医師の職責を理解し、患者中心の医療を実践しながら、医師としての道を究めていくことができる。

1. 卓越した臨床能力と高い倫理性を基盤として、患者の利益を第一に追求し、公共の福祉に貢献することが医師の職責であることを理解できる。
2. 専門職にある者として適切な服装、態度、言葉遣い、行動をとることができる。
3. 豊かな教養と確固たる倫理観を身に付け、利他的かつ公正な態度で行動できる。
4. 診療現場において患者・家族と信頼関係を築くことができる。
5. 患者・家族の価値観や社会的背景に配慮し、対応できる。
6. インフォームドコンセントについて説明できる。
7. 個人情報保護の重要性を理解し、守秘義務を守ることができる。
8. 医師法を含む医療関連法規を理解し、順守できる。
9. 利益相反について理解し、職業上発生する利害に適切に対処できる。

II. 医学的知識

基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学、医療倫理に関する知識を修得し、それらを医療・保健活動に応用することができる。

1. 医学の基礎となる自然科学や倫理学に関する知識を有する。
2. 人体の構造と機能、生体防御、薬物動態について説明できる。
3. 生命の発生から成長、発達、加齢、死に至る過程を説明できる。
4. 人間の心理と行動について説明できる。
5. 基礎医学の知識を疾患の病因、病態、症候の理解に応用できる。
6. 重要な疾患について、疫学、症候、病因、病理、病態、治療法、予後に関する知識を有し、診療に応用できる。
7. 社会医学・法医学の知識を医療・保健活動に応用できる。
8. 保健・医療に関する課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境、人口動態などの観点から説明できる。

III. 問題対応能力

根拠に基づいた医療(evidence-based medicine <EBM>)を基盤に、経験も踏まえながら、幅広い症候・病態・疾患に対応できる。

1. 患者のプロブレムを発見し、重要性・必要性に照らして順位付けできる。
2. 患者のプロブレムの解決方法を見出し、課題を解決できる。
3. 患者のプロブレムに対して、指導医や他職種と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。
4. 適切な自己評価ができ、改善のための具体的方策を立てることができる。
5. 患者のプロブレムに関する国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
6. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。
7. 臨床経験を決められた様式に従って文書と口頭で発表できる。
8. 同僚や後輩に対して適切な助言や指導ができる。

IV. 診察技能と患者ケア

臨床技能を磨くとともにそれらを用い、患者の苦痛や不安感に配慮しながら、診療を實踐できる。

1. 病歴を適切に聴取し、系統的かつ効率的な身体診察を行い、異常所見を見出し、臨床推論によって適切な鑑別診断が行える。
2. 診断や治療に必要な検査計画を立案し、検査結果を解釈することができる。
3. 重要な疾患の適切な治療計画を立てられる。
4. 診療録についての基本的な知識を修得し、問題志向型医療記録(problem-oriented medical record <POMR>)形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。
5. 患者の病状(症状、身体所見、検査所見等)、プロブレムリスト、鑑別診断、臨床経過、治療法の要点を提示し、診療チームの構成員と意見交換をすることができる。
6. 緊急を要する病態や疾患に関する知識を有し、診療チームの一員として救急医療に参画できる。
7. 慢性疾患や慢性疼痛の病態、経過、治療に関する知識を有し、医療を提供する場や制度に応じて、診療チームの一員として慢性期医療に参画できる。
8. 患者の苦痛や不安感に配慮しながら、就学・就労、育児・介護などの両立支援を含め患者・家族に対し誠実に適切な支援を行える。
9. 患者との良好な関係を構築し、必要に応じて患者教育を行える。

V. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえながら患者・家族と良好な関係を築き、意思決定を支援することができる。

1. コミュニケーションを通して良好な人間関係を築くことができる。
2. 患者・家族の話に傾聴し、共感することができる。
3. 患者・家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。
4. 患者に分かりやすい言葉で説明できる。
5. 患者の心理的及び社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。
6. 患者のプライバシーに配慮できる。
7. 患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。

VI. チーム医療の実践

保健・医療・福祉・介護等、患者に関わる全ての領域の人々の役割を理解し、連携することができる。

1. 診療チームの構成や各構成員(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の医療職)の役割分担と連携・責任体制について説明できる。
2. 多職種からなる診療チームの一員として参加できる。
3. 自分の能力の限界を認識し、必要に応じて他の医療従事者に援助を求められることができる。

VII. 医療の質と安全の管理

患者及び医療者にとって、良質で安全な医療を提供できる。

1. 医療上の事故等(インシデントを含む)に遭遇した際に、その対応方法に関する議論ができる。
2. 医療関連感染症(院内感染を含む)の原因及び回避する方法を概説できる。
3. 医療上の事故等(インシデントを含む)が発生したときの状況や緊急処置について報告することができる。
4. 医療安全の基本的予防策を概説し、指導医の指導の下に実践できる。
5. 標準予防策(standard precautions)の必要性を説明し、実行できる。

VIII. 社会における医療の実践と国際的視野

医療人として求められる社会的役割を担い、地域とともに創造し、世界に向かって発信することができる。

1. 地域が抱える課題を理解し、その解決方法に関する議論ができる。
2. かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得できる。
3. 地域医療や災害医療に積極的に参加できる。
4. 地域住民に対する疾病予防、健康増進、安全確保のための活動に参加できる。
5. 患者の文化的背景を理解し、多様性を尊重した医療を実践することができる。
6. 英語により医学・医療に関する情報を入手し、発信できる。
7. 世界における疾病の動向や医療・保健問題のトピックスについて説明できる。
8. 社会福祉制度、社会保障制度、保険医療制度、医療経済について理解できる。

IX. 科学的探究

医学・医療の発展のための医学研究の必要性を理解し、批判的思考も身に付けながら、学術・研究活動に参画することができる。

1. 基礎医学の講義・実習で得た知識をもとに、診療で経験した病態の解析ができる。
2. 患者や疾患の分析をもとに、教科書・論文等から最新の情報を検索・整理統合し、疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。
3. 抽出した医学・医療情報から新たな仮説を設定し、問題解決に向けた研究活動(臨床研究、疫学研究、生命科学研究等)に参加できる。
4. 指導者の下で研究活動に参加し、研究発表や論文作成を行うことができる。
5. 生命倫理・研究倫理・臨床倫理に配慮した研究活動について理解できる。

X. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために絶えず省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自立的に学び続けることができる。

1. 生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。
2. キャリア開発能力を獲得する。
3. キャリアステージにより求められる能力に異なるニーズがあることを理解できる。
4. 臨床実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にすることができる。